

項目	内容
名称	ギョウジャニンニク [英]Alpine leek [学名]Allium victorialis L. ssp. platyphyllum (Hult) Makino、Allium victorialis L. ssp. platyphyllum Hult.
概要	ギョウジャニンニクは、日本で昔から山菜として食されてきた多年生草本である。北海道、東北に多くみられ、特にアイヌにも親しまれていることから別名アイヌネギとも呼ばれる。強いニンニク臭が有り、行者がこれを食べて修行したという伝承からこの名が付いた。
法規・制度	<b>■ 食薬区分</b> ・全草：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・フラボン (アルビクトシドA~G)、イオウ化合物 (メチルメタンチオサルフェート、2-ビニル-4H-1, 3-ジチン、アリチリジン)、アルキルフェノール誘導体 (アリウモノエートA) などを含む (105)。
分析法	・アリイン、アリシンがフォトダイオードアレイ検出器 (検出波長200~400、220 nm) を装着したHPLCにより分析されている (101) (102)。 ・遊離アミノ酸がアミノ酸自動分析計により分析されている (103)。 ・タンパク質が電気泳動法により分析されている (104)。
	有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
ヒト生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
で脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
の免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について) (101) 山梨県衛生公害研究所年報. 1994;38:12-9. (102) 山梨県衛生公害研究所年報. 1995;39:11-4. (103) 山梨県衛生公害研究所年報. 1995;39:15-20. (104) 山梨県衛生公害研究所年報. 1996;40:6-9. (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (35) 新分類 牧野日本植物図鑑 北隆館 (105) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規